

今まで私達は様々なプロデュースや監修をして参りました。
小さな個人のこだわりのお店から、誰もが知る有名企業まで。

小さくさやかでも自身にとっては大きな夢や想いを実現させるお手伝い、ずっと守り続けて来た産業が新しい時代を迎えるためのアドバイス、新しい業態や産業の日本での発動、新たなカルチャーを種蒔くこと、大切な本質をより大切に作る為のお手伝い、より極みを目指す究極への追及などなど。

私のこれまでの25年の活動はアフタヌーンティーや英国菓子、英国の食文化をお伝えするだけでなく、こうして様々なプロデュースを手掛けて実績を残して参りました。

今までのご依頼ではご紹介や関係者の繋がりでお引き受けしておりましたが、より多くの皆様と繋がり、一緒にさせていただく時が来たのではと実感しております。

それは、人それぞれが思う願いと、功績や収益が相反する現在の中で、
画一化或いはマニュアル化された大きな流れに疑問を抱く方もきっと多くなるはず。だと考えるからです。

流行や大手の産業流入による多角経営や経営の統合など、太く厚いものに巻かれなければ生き残れないとするならば、個性や個人の幸福感も奪われて行きそうで。

そんな寂しくぬるま湯の心地よさに、いつまで人は耐えられるのでしょうか？

私はだからこそ未来は個性が認められる社会を取り戻すのではと考えています。

つまり人それぞれの”価値“や”想い“に人の心が再び辿り着く日が来ると思うのです。

現在ではまだ「早すぎる」と言われるかも知れません。

何故なら、ずっとそうだったと感じています。スコーンも英国菓子もアフタヌーンティーでさえも。

いつしか市場が活気ついて来ると、あたかもそれが当たり前のように追いかけて真似をして、結局は一時しのぎの商業の競争に押しつぶされてしまうのです。

その時になって手を挙げたって、すぐに祭りは終わります。

けれど流行が去ったとしても、本当に”好きなものは好き“なのではありませんか？

私はその「好き」が自分の”生きざま”である方と一緒にしたいのです。

そしてそれを形にして、どう人へ伝え、どう感じて頂けるのかを真剣に向き合い価値にしてご自身が生きた”理由”を実感していただきたいと願います。

その「お手伝い」が私のしたい”仕事”です。

どうぞお気軽にご相談下さい。個人から企業、公共事業、承ります。

BRITISH CAKE HOUSE

代表 小澤桂一